



東北復興日記

またまた

▶▶ 223



一般社団法人さとうみ

フアーム事務局長

浅沼裕美さん

を目の当たりにしました。

「子どもが笑顔になれば大人も笑顔になれるはず」。そんな思いで活動していた私たちは、個人や企業などから多くの支援をいただき、一三年に公園を整備しました。その後、活動を継続するため羊の観光牧場を始めました。捨てられていたワカメの茎を活用した飼料を与えた、ブランド羊肉の研究・販売にも着手しました。羊毛製品も製作しながら、家族で一日ゆったり過ごせる場所づくりを目指して奮闘しています。

この五年間、継続している活動のひとつにカヤック体験教室があります。写真。津波で怖い思いをした子どもたちが、海で遊ぶ楽しさを思い出すきっかけになってほしいと、一二年九月に初開催。保護者の中には「震災後初めて海で泳ぎました」「また海でこんな笑顔を見せてくれるとは思わなかった」と涙される方もいました。

来月五日には「第四回moco mocoひつじ祭り」を開きます。羊との触れ合い、羊毛ワークショップ、カヤック体験教室などを行います。海に子どもたちの笑顔あふれる一日です。ぜひ遊びにきてください。

※この連載は、東京のNP
O法人JKSKと、被災地の
女性たちが協力して復興に取
り組む「結核プロジェクト」の
協力を得て、掲載しています。



宮城県南三陸町の「さとうみフアーム」の前身は、東日本震災後に川崎市で発足したボランティア団体でした。より被災地の地元根ざした活動をしたい、と二〇一二年に一般社団法人化しました。私は平日には川崎で保育士として働き、三カ月一度ほど南三陸町に通って、事務局長として約五年、ボランティアで活動に参加しています。

震災から一年たったころのこと。週末の子ども向けイベントや漁師さんの手伝いなどをする中、がれきが残りトラックが常に往來する町で「子どもたちの姿が見えない。毎日どこで遊んでいるのだろうか」と疑問が浮かびました。地元の方に尋ねると「今は仮設の駐車場で遊んだり、安全に遊ぶために四十分以上かけて隣町まで行ったりしている」。子どもたちが楽しく生活する環境には程遠い現実

子どもたちに 海で遊ぶ楽しさ